



図書館だより

河内中学校

R5,9,14 発行



虫の音にも秋の到来を感じます。落ち着いて本を読むには、良い季節となりました。
 図書館は皆さんからのリクエスト本や、新しく購入した本が続々と入ってくる時期です。
 足を運びお気に入りの一冊を見つけてください。



「イケてない夏も財産」

作家 重松清さん

(2018. 9. 12 朝日新聞記事「私の夏」より)

明るくて健康的で、夏と若者は相性がいい分、「夏の若者はこうあるべき」というイメージがすごくあるよね。でもだらだらの夏や、独りぼっちで寂しい夏だって、きっとある。僕も小さい頃、そうだったから。

充実した経験は、もちろん大きな財産。でも成功体験だけ、楽しかった体験だけで、挫折と無縁の青春って、大人になった時しんどいと思う。何かをうまく終われなかったり、終わりを受け入れられなかったり、そこから落としどころを見つけるところに成長があるんだよ。

夏は、日常から離れた自由な時間が増え、いつもと違う風景に触れ、人のいろいろな感情を理解する「解像度」を高める好機。夏が終わった今、自分の内面のネガティブな気持ちも、大切にしっかり見ておくといいよ。



9月11日より「読書運動会」が始まりました！

各団ごとに読書量を競う取り組みです。
 貸し出しを受けたら、各団にシールを貼いましょう。
 シールは貸し出しカウンターにあります。



9月1日は「防災の日」でした。

それに合わせて、防災に関する新聞記事や本の
 掲示を行っています。「そなえあればうれいなし」

こんな本を読んでみよう！

読書だ
愉快だ
宇都宮
UTSUNOMIYA

牧野富太郎 なぜ花は匂うか

牧野富太郎 著

平凡社



牧野富太郎自身による草花をテーマとしたエッセイ集です。文章中の挿絵も富太郎自筆のものです。図鑑は多く書き残しましたが、こういった文章が主体の資料は貴重です。「植物愛」に満ちた富太郎の才能が伝わる一冊です。

分類：47 マ

戦争日記

オリガ・グレベンニク著 ロシア語監修者 奈倉有里 訳者 渡辺麻士香 ほか

河出書房新社



作者はウクライナ出身の絵本作家です。ロシアの軍事侵攻が始まり、通常の作家活動はできなくなりました。この本は、9歳と4歳の2人の子供を連れて、国外へ逃れるまでを、鉛筆画で描いた絵日記です。簡素な絵から伝わる戦時の緊張感。命の保証がない日々の暮らしの切なさが、白黒の画にはにじみます。

分類：986 グ

中学校の授業でネット中傷を考えた

宇多川はるか 著

講談社



私立開成中学校の2年生の国語の授業を、担当の教員への取材や生徒たちへの感想文を引用して、書き起こしたノンフィクションです。「突然、僕は殺人犯にされた」(スマイリーキクチ著)をテキストに、言葉の暴力について生徒たちと考えた、全6時間の授業の記録です。

分類：00 ウ

物語の種

有川浩 著

幻冬舎



外出が制限されていたコロナ禍の最中に、一般の方から募集した「お題」を種に作者が物語を創作するという試みが行われました。そして出来上がったのが本書です。十篇の短編集のそれぞれの巻末には、「著者からのひとこと」が書かれています。創作のきっかけや、作品への思いなど、さながら著書からの読者へのラブレターですね。

分類 913 ア

明治のナイチンゲール 大関 和物語

田中ひかる 著

中央公論新社



大関和（おおぜきちか）は明治時代に正式な看護教育を受けた日本の看護婦（現在の看護師）の草分け的存在です。働く女性が「職業婦人」と呼ばれ必ずしも尊敬の対象とはならない時代に、自ら率先してこの仕事につきました。感染症や貧困に苦しむ多くの人の命を救い「日本のナイチンゲール」と呼ばれました。

分類：28 タ

*カラー版がクロームのクラスルーム（図書館だより）で見られます。owjf27p（オーダブリュージェイエフ 27ピー）です。

